

そのとき、少女の瞳の中に、救いを求める八月の街があった――。

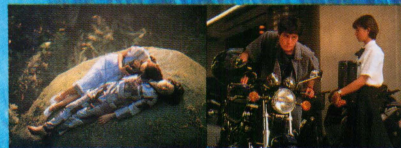
石井聰互監督作品

水の中の八月

August in the Water

小嶺麗奈 青木伸輔
宝井誠明 松尾れい子
天本英世 榎崎弥之助
草刈正雄 中村有志
(特別出演)

戸田菜穂



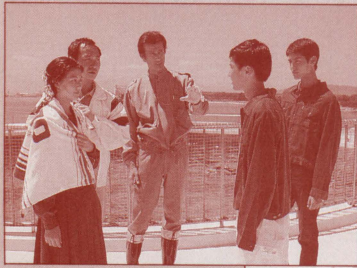
製作:佐藤正悦 / プロデューサー:古澤敏文 / プロデュース協力:高橋哲也 / 脚本・監督:石井聰互 / 撮影:笠松則通 / 照明:渡邊孝一 / 美術:林田裕至
音楽:小野川浩幸、他 / 録音:三澤武徳 / 編集:松尾浩 / タイトル協力:関川夏央 / 飛び込み監修:小山俊治

協賛:日本航空株式会社、西鉄旅行株式会社、株式会社環境開発、日鉄鉱業株式会社

協力:福岡市、平成六年度福岡市芸術文化活動助成事業、アジアフォーカス・福岡映画祭実行委員会、1995年ユニバーシアード福岡大会組織委員会、福岡県教育委員会、北九州市

製作・配給:水の中の八月、製作委員会 / 製作・配給協力:huvvuu! 株式会社ヒルウィラ / 宣伝:ファザーSCI / イーストマンカラー / 117分 / ビスタサイズ

胸にしみる映像美で彩られたSF



制服姿の少女がイルカのプールに飛び込む——意表をつくグラン・ブルーな映像で始まるこの『水の中の八月』は、高校時代に誰もが体験し、そして、忘れかけている爽やかな初恋世界から、そのドラマの幕を開ける。

ナイーブな少年・真魚が、高飛びのスターである少女・泉にひかれ、彼女も、また、彼に寄り添う。ふたりの絆は泉が高飛びに失敗し、臨死体験を経たことでさらに強まるが、そこから、ドラマは自然と人間をテーマとした壮大なるSF(スピリチュアル・ファンタジー)世界へと展開していく。「水」「石」「高飛び」をキーワードとした鮮烈な“伝説”が語られていく。

「全てが新鮮に映る」と一種の超能力を得た泉は、イルカと会話し、森の声に耳を傾け、そして、宇宙と交信する。自然が人類に対して鳴らした警鐘である「石化病」。水を失った街に流行するこの“奇病”に、ひとり立ち向かう泉。真魚は彼女を気遣うが、泉は何かに導かれ、消えていく。やがて、全てを洗い流す雨が降り、泉は二度と真魚の前に姿を現すことはなかった。しかし、ふたりの絆は永遠の輝きを放っていた……。

いま、鮮烈な神話的“宇宙伝説”が誕生した——。

石井ワールドと美少女伝説

「思うもの全てを映像に込めた」と監督自ら語るように、この『水の中の八月』は石井聰互監督のこれまでの集大成であり、21世紀に向けた新たな石井ワールドの予兆でもある。故郷・福岡の街を繊細かつ大胆に切り取り、石井作品には欠かせない撮影の笠松則通が、見事なまでの映像美でその風景を定着させていく。特に、山笠の祭りのシーンは身震いするほど圧巻である。

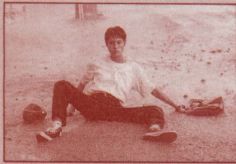
そして今回、石井ワールドに新たな“伝説”が加わった。初めて“少女”をヒロインとして描いたのだ。壮大なる“伝説の女神”美少女・泉を演じたのは新人の小嶺麗奈。篠山紀信氏に「脅威の少女」と云わしめた彼女は14才ながら、そのみずみずしい存在感と、フォトジェニックな容姿で観客を魅了する。また、泉の相手役・真魚には、やはり新人の青木伸輔。そのナイーブなキャラクターはこれからブレイクすること間違いない。そして、戸田菜穂、味のある演技を披露してくれた衆議院議員の榎崎弥之助、天本英世、草刈正雄等の出演者が作品に厚みを加えている。

大いなる予感をはらみながら、

いま、新たな石井ワールドの扉が開かれた——。

水の中の八月

August in the Water



小説『水の中の八月——August in the Water』
(石井聰互著：ソニー・マガシズ刊)

12/16 土 ~ 29 金

ロードショー

12:20 / 2:40 / 4:00 / 6:20

前売一般 = 1,400円
前売学生 = 1,200円
(当日一般 = 1,700円 当日学生 = 1,400円)

ホワイティ泉の広場上がる 東へ5分

扇田ミュージアムスクエア

06・361・0088